

作物名：きゅうり

病害虫名：炭疽病（病原：*Colletotrichum orbiculare*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- 葉、茎、果実に発生する。
- 葉では初め、黄褐色、円形の病斑となって中央は破れやすくなる。
- 葉柄や茎には、紡錘形のくぼんだ病斑を生じ、果実では円形～楕円形の深くくぼんだ病斑を生じる。
- 多湿時には病斑部に鮭肉色の粘質物（胞子のかたまり）を生じる。

2 伝染源・伝染方法

- 本病菌は被害残渣とともに菌糸や分生子の形でほ場に残り、次作の伝染源となる。また、支柱などの資材に付着して伝染源となる。
- 種子伝染する可能性もある。
- 病斑上に形成された胞子が、降雨などの水滴に溶けて水滴とともに飛散して感染が広がる。水媒伝染であるため、伝染には降雨等の水滴が必要である。

3 発病しやすい条件

- 本病菌は糸状菌の一種で、不完全菌類に属し、分生子層上に分生子と剛毛を形成する。
- 菌の生育適温は 23℃である。
- 主に露地栽培で発生し、雨のあたらない施設栽培ではほとんど発生しない。
- きゅうりの他、スイカ、メロンなどウリ科作物に寄生する。

4 防除方法

- 雨よけ栽培、マルチ栽培をする。
- 排水を良くし、適切な肥培管理を行う。
- 密植を避け、風通しを良くする。上部から灌水しない。早めに薬剤散布する。
- 被害残渣は圃場外に持ち出し土中に埋める。
- 支柱についた巻きひげなどは次作の伝染源になるので除去する。

5 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）
- 防除ハンドブック：きゅうり、スイカ、メロンの病害虫（全農協）
- 農業総覧原色病害虫診断防除編2-②（農文協）
- 農業総覧病害虫防除・資材編2（農文協）

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真1 葉の病徴



写真2 葉の病斑（拡大）

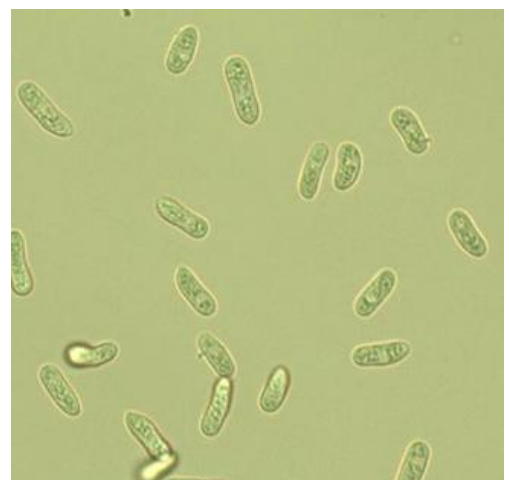


写真3 炭疽病菌の分生子

（令和5年9月改訂）